

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870800824		
法人名	(有)エムアンドエム開発		
事業所名	グループホームリーベストラウム		
所在地	兵庫県神戸市垂水区本多間2丁目34-4		
自己評価作成日	平成22年7月25日	評価結果市町村受理日	2010年9月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hvogo-kai.go.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104
訪問調査日	平成22年8月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

長い人生を歩んで来られた方々が、たとえ認知症になっても尊敬され愛されて穏やかな毎日を過ごされる様支援したいと思っております。その為にはご本人様のみならずご家族様や地域の皆様に信頼されるホームでなければなりません。施設長、管理者、職員が常に心を合わせて入居者様に何が必要かを求めているかを把握出来る様努力しております。ご家族様が希望や思いを遠慮なく伝えて下さる様に暖かい雰囲気を作り、職員にもプロとして心からの笑顔で対応できる様に教育して行きたいと心がけています。毎日の食事は入居者様にとって何よりの楽しみで有り健康維持の為にも重要な事ですので、希望をお聞きし献立作り調理をし、共に楽しく食事をしています。お料理を教えて頂く事もよく有ります。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が尊厳のある日常生活を送れるよう、さまざまな取り組みがなされている。①食事を大切にしている。新鮮な食材で手間をかけて調理している。味付けや調理法の話を楽しみながら職員も全員一緒に食事をしている。②入居後も家族との距離が離れないように関係性の継続を支援している。行事にも多くの家族が参加し一緒に楽しんだり、年2回家族会も開催されている。③地域のボランティアや保育所とも交流に努めている。音楽療法、コーラス、絵手紙等ボランティアの参加や保育所の園児の訪問や保育所職員の運営推進会議出席もあり、利用者の生活が潤っている。今後は利用者個々の馴染みの場への外出の機会を増やす等、利用者の楽しみがさらに増える取り組みを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

リーベストラウム 2F [セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	2階入り口やスタッフルーム等いつも目につく所に施設理念を掲げ意識付けしている。折りにふれミーティングでも話し合っている。	「利用者が安心して家庭的な生活、尊厳のある生活を送ることができる地域に開かれたホームをめざす」新しい理念を職員も含め作った。ミーティング等で理念を確認して、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩に出た時にお話したり、庭のお花を頂いたりする事も有る。文化祭や夏まつりにも参加している。保育所の発表会等にも呼んで頂いて見学に出かけたり、園児さんが訪問してくれる事も有る。	自治会に加入しており、地域の行事で利用者がこより作りの手伝いをしたり、文化祭へ作品の出品、保育所との交流等をしている。普段の暮らしの中では、コンビニ、薬局等への散歩を兼ねた買い物で、地域とのつながりを継続させる支援がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の勉強会を開催し地域にも呼びかけたところ、ご家族様以外にも地域の方が十数名参加され喜んで下さったので今後も機会を作って貢献したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の生活の様子や行事等の報告をし、委員さんからの意見やアドバイスを日々のサービスに取り入れている。	利用者家族、地域代表、高齢者介護支援センター、保育所、主治医、法人職員等で定期的開催している。ホームの報告に対し、出席者からの質問や提案がなされる会議となっている。第三者評価についても伝えている。利用者や園児の交流のある保育所からの参加もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	垂水区のあんしんすこやか係りの保健師さんにホームに来て頂き、全職員に感染症予防の研修をして頂いた。色々な点で神戸市高齢福祉課の指導を仰いでいる。	垂水区役所の保健師に感染症の研修を依頼した。事業所と市との連携は少なく、グループホーム連絡会で相談することが多い。	事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝える市との連携について、運営推進会議で検討されてはいかがか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングでも身体拘束をしない介護について勉強をしている。ホームで拘束はしていないが危険が感じられる状態の時には葛藤が有るので職員、ご家族様で対策をよく検討するようにしている。	職員全員が研修を受け、転倒防止の工夫をする等身体拘束をしないケアに努めている。玄関のセンサーは必要と考えている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングでもよく話し合うが言葉や態度にも注意をするようにしている。職員が研修を受けて来て全員に報告をしている。ご家族様にも気になる事は言って頂くように常にお願している。	職員全員が高齢者虐待について学んでいる。言葉の虐待は気づきにくいので、意識するよう促している。職員のストレスや負担軽減のため、忙しい時間帯の職員の補充や、チームケアを心がけ余裕を持ってケアできるようにしている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉士さんに来て頂いて成年後見制度について勉強をした事が有る。入居者様が制度を利用される時には出来るだけの支援をしている。	制度の理解が必要と考え、研修を受けている。成年後見制度と日常生活自立支援事業を利用している利用者がいる。資料等は準備していない。	今後の利用に向けて資料を整備し、契約時や必要に応じて説明されてはいいか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項の説明、個人情報の取り扱い、重度化した場合の対応、看取りに関する指針まで詳しく説明し納得して頂いてから契約を交わしている。	契約時に重要事項等時間をかけて説明している。自宅訪問で説明する場合もある。体験を通して納得して利用される場合もある。料金等改定時は運営推進会議にはかり、個別に説明、納得を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会等でご意見を伺い又ご意見箱の設置や苦情受付窓口等を明示している。	年2回事業所で家族会を開催し、利用者、家族の意見、要望を聞いている。家族のみで話し合う時間を設けたこともある。意見等の反映については個別に説明したり、場合によってはホーム便りで報告している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングに全員参加し、直接代表者や管理者と話し合う機会を持っている。毎日代表者や管理者も一緒に昼食を摂り会話の機会を持っている。	毎月のミーティングで代表者・管理者と職員が意見交換している。意見はケアの方法に関するものが多い。シフト調整は、職員の希望をかなえるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入居者様の状態によっては手の回らない時間帯に職員を規定以上に増員している。職員の健康や個人生活が維持出来る様に勤務体制を配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に数回講師を招いて職員が希望する研修をしている。施設での仕事上必要な研修を受ける場合は費用を負担している。外部の研修を受ける為には勤務体制を融通している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	垂水区グループホーム連絡会を年に4回程開催している。夫々に介護リーダー会と管理者会を持っており、立場毎に情報交換や勉強会をしている。他ホームの取り組みを知る事によって質の向上を図っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ずご本人との面接を行い不安や困っている事を伺う。言葉で表現出来ないような時は様子をよく観察し安心して頂ける関係作りに励む。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様と面接をし不安や要望をよく伺って安心して生活が始められるようにお話をします。ホームでの生活で出来る事出来ない事も説明し理解して頂く。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望であってもご本人がグループホームでは無く他施設や病院のほうがより良い生活を送れそうな場合はその方向で紹介等の支援をしている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は長い生活歴を持っておられ、知っている事出来る事が沢山お有りなので、色々教えて頂きながら共に生活をしている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの催し等に協力して頂いたり、ボランティアで音楽活動をして頂いたりご家族様にも支援して頂いている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人の訪問を歓迎しゆっくり寛いで頂ける様に配慮している。親戚の方やご家族様が居室に泊まれる時にはご希望によって食事の提供もしている。	馴染みの関係は生活歴や日頃の会話の中から聞き取っている。親戚や友人の訪問が中心で、馴染みの場への個別外出は家族が対応している。絵手紙を職員と一緒に馴染みの人に出す等で馴染みの関係継続を支援している。	家族が外出支援できない場合等、事業所による馴染みの場への関係支援の検討を期待したい。
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員対入居者様の関わりだけでなく入居者様同士の関わり合いを持って頂けるように、介入を最小限にする場合も有る。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も転出先の施設や病院から対応に関する助言を求められてアドバイスをする事もある。以前お姑様が入居されていて、将来はここでとっておられ実際に入居された方が現在穏やかに暮らしておられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の思いを尊重し最初から無理と決めつけない。したい事は職員間の話し合いによって実現可能な方向にむけ、無理な時はご家族様のご協力をお願いしている。	普通の会話や日々の様子から言葉に出せない思いを推測している。家族は穏やかに暮らして欲しいと希望されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のご家族様とのお話やフェースシート、ご本人との会話から生活歴や暮らし方の希望等を把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で入居者様を総合的に見ることで一人では見落としがちな日常の行動も把握する様努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様個々に担当者を決めアセスメント、モニタリングをする。ご家族感の希望もお聞きし計画作成担当者を中心に計画を作成、全職員が目を通して決定する。ご家族様に説明、同意を得てから交付している。	各利用者の担当職員が、他の職員の協力を得てアセスメントし、医師の意見等も参考に計画作成者がプランを立てている。出来上がったケアプランは毎日の生活記録に収め、担当者が日々モニタリングして、次のプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録には入居者様の言葉、行動等も記録しその方の状態を職員全員が把握して実践できるように努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状態によりご家族様に泊まって頂いたり一緒に食事やお茶の時間を過ごして頂いたりして希望に応えるようにしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんの力を借りたり、地域の催しへの参加、周辺の店での買い物等、地域との繋がりを持ち続けるよう支援している。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携の医院のみならず、希望により入居前からのかかりつけ医や大学病院等の医療機関とも連絡を取ってより良い生活を続けられる様配慮している。	入居時にかかりつけ医継続の希望を確認し、家族送迎の受診時には、利用者の生活記録を手渡し医師と連携をとっている。事業所の1階が協力医の診療所であり、往診は月2回である。24時間体制で連携が取れており、緊急時に安心の医療体制となっている。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1階の医院の看護師、ホームの非常勤看護師と連絡を密にし、適切な治療を受けられると共に健康状態に関する相談も行っている。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には提携医と共に入院先を探したり情報提供をしている。退院時には以後の生活が順調に始められる様病院関係者と連絡を取っている。	入院時には担当医に生活記録を渡して連携に努め、利用者が安心して治療を受けられるよう面会をしている。利用者の「住みなれたホームに戻りたい」という思いを受け止め、早期退院に向け関係者と話し合い、受け入れを準備している。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人様ご家族様と話し合い文書化している。状況に応じて医師、職員を交えて話し合い方針を共有して取り組んでいる。	緊急時や重度化した場合の対応について、入居時に文書で取り交わしている。開設以来ホームで最後を看取った人は8人である。終末期には、利用者、家族や医師と話し合いを重ね、親しい人に見守られながら安らかな最後を迎えられるよう職員全員が気持ちを一つにして取り組んでいる。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防救急隊の指導を受けるとともに、職員の何人かが救急救命士の研修を受けた。定期的に訓練を行うまではできていない。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回消防隊員による訓練を受け、各階で入居者様の避難誘導方法を確認し掲示している。その他に感知器やスプリンクラーの点検、非常口の点検等建物設備の面からも安全確認をしている。	年1回消防署が立会い、夜間想定消防・避難訓練を実施している。また年1回ビル管理会社の火災報知設備の説明と実習を受けている。さらに職員が自主的に「毎週・毎月点検表」で防災設備を確認している。スプリンクラーが各居室やクローゼット天井にも設備され安全に配慮されている。	近隣地区と緊急時の協力体制を構築しておくことは必要である。隣地の24時間営業コンビニの責任者に対し、ホーム事業内容の周知のための働きかけをされているが、積極的な交流に期待したい。

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬し、声掛けや対応に配慮する様に気を付けている。ミーティング等でも話し合い確認し合っている。	利用者個々の気持ちを大切に考え、誇りを傷つけないようなさりげないケアを心がけている。言葉遣いは親しみのなかにも馴れ合いにならないように職員同士で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で思い悩んでいる様子や気になる様子が見られたら声かけし思いを傾聴する。職員の思いを押し付けに注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務や決まり事を優先せず、日々入居者様の希望に沿った過ごし方を考える様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や服装についてご本人と相談しその方らしい生活が出来る様支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物の希望を聞いて献立を考える。調理、食事、片付けを共にする事によって毎日の食生活を楽しみな物にするよう努力している。毎食「美味しかった！」と笑顔で完食して頂いている。	利用者に希望を聞き職員が献立を作成している。食事の一連の作業のうち、利用者ができることややりたいことをとものに行なっている。食事は職員も一緒に摂り楽しみの時間となるよう努めている。行事日にはお寿司などの出前をとり、参加した大勢の家族とともに喜びを一つにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量水分量の把握をし、栄養がバランス良く摂れ、一人ひとりの状態に合っているか常に気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週歯科医や歯科衛生士に口腔内のチェックをして貰い、個人の力に応じて援助しながら毎日の口腔ケアをしている。歯科医より大変良い状態になっていると褒めて頂いた。歯ブラシや義歯の清潔保持にも注意している。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンをつかみ適切な誘導を心がける事により、入居時におむつ装着していた方で普通の下着に移行した方が多くいらつやる。	利用者の排泄記録により個々のリズムを把握し、トイレに誘導している。誘導時はコミュニケーションを重視し、プライバシーへの配慮を心がけている。おむつから布パンツに移行した利用者が4人あり、生活への自信を取り戻している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前に水や牛乳を飲んで頂き、排泄表を確認しながらトイレ誘導する。食事は便通を促す様に繊維質の多い野菜中心に摂って頂く様に考えている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望を聞いて入浴をして頂く。拒否が有る場合は声掛けに配慮すると共に翌日に連絡、申し送ってなるべく間が開き過ぎないように配慮している。	入浴は基本的に週3回午前中としているが、汚染時や夏季の散歩後のシャワーなどは随時対応している。足浴を毎日行なっている利用者もいる。入浴時間はリラックスして1対1で関わり、利用者の昔話や本音などをゆっくり聞くように心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中運動不足で眠れない方には身体を動かして頂く事を支援し、お昼寝の必要な方には安心して休んで頂く様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方されたら必ず薬情報と照らし合わせて内容を確認し、間違いなく服薬して頂くと共に症状に注意している。服薬して頂くまでに複数の職員でチェックし、服薬後の空き袋は3か月間保存している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの人生の経験を生かし、役割を持って頂ける様に配慮する。一人ひとりの楽しみや気分転換等に配慮し、書や絵画、音楽等レクや催し事を行っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩等の希望は、体調を考慮しながら出来るだけ支援している。ご家族様にもご協力をお願いして、行きたい所に出来るだけ出かけられる様配慮している。	天候や体調を考慮し少人数に分かれて買物や散歩に出かけている。毎日出かけたいた利用者にもできるだけ支援している。季節の花見などにも出かけている。展覧会への希望に職員2人で対応したことはあるが、遠くの外出には家族の協力を得ている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身でお金を管理している入居者様も数名おられる。スタッフと共にお散歩を兼ねて買い物に行く事も有る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	外部からの取り次ぎのみで無くご本人の希望が有ればかける事も出来る。電話中は椅子を用意しゆっくりと話して頂く。携帯電話の使用法が分からなくなった場合は代わってかける。年賀状を書いて出して頂く支援等もしている		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様と共に季節の飾りを作ってリビングや廊下に飾る。温度や明るさはその都度尋ねて過ごし易い環境となる様配慮している。裏庭や玄関先に花や少しだが野菜を育て、水やり収穫等を楽しんでいる。	事業所は2階、3階であり明るい光が差し込んでいる。リビングや廊下には利用者の個別の作品や合作の飾り付けが適度に貼られ、季節の生け花が飾られ落ち着いた雰囲気となっている。また2カ所にソファを置き利用者同士がくつろげる場所としている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数人で囲める様にテーブルを配置。入居者様が自由に過ごせる様リビングにソファや椅子を用意している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様と相談して自宅ですべて使っていたダンス鏡台や衣類等を持参して頂いている。これまでに作られた刺繍、造花、人形、書や写真等の作品も飾っている。	各居室には広いクローゼットがあり利用者の衣類は整理されている。馴染みの家具やソファなどを置き、利用者が安らげるような個性的な部屋づくりとなっている。家族や親族が泊まることもあり、簡易ベッドを入れゆっくり過ごしていただけるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレが分かる様にイラスト、表札、暖簾等で表示している。食器拭き等も手の大きさや腕の力に配慮して出来る事をして頂く様配慮している。		